幼馴染に恋をする

珠梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
幼馴染に恋をする

【Ｎコード】
Ｎ２７２１Ｊ

【作者名】
珠梨

【あらすじ】
超モテモテの高校１年生の咲奈は幼馴染の純に恋をしていた。
そしてある日、純はクラスメイトに告白をされた。
その告白に純は――――？
そして、咲奈の恋の行方は――――？

放課後の教室で咲奈な告白をされていた。

「俺、ずっと前から川島さんのことが好きだったんです。
もし、よかったら付き合ってください」

高校に入学してから何度目かわからない告白。
みんな同じような台詞。

「ごめん。あたし今付き合うとか考えてないんだ」

また、同じ台詞で振った。
相手は悲しそうに顔を伏せて教室を出て行った。

「はぁ〜」

大きな溜息をついて、机に腰掛けた。
窓に顔を向けると、グラウンドが見えた。
グラウンドではサッカー部や野球部が部活をしている。

「咲奈、終わった？」

教室に現れたのは、幼馴染の新井純。

「うん、終わった」

「振ったの？」

「もちろん」

いままでの告白はすべて断っている。
それは・・・ 好きな人がいるから。

「帰るか」

「そうだね」

純と咲奈の家は隣同士で親がとても仲が良い。
その結果、高校まで同じところに行く羽目になった。
登下校は小学校のときからずっと一緒だ。

「うわっ、寒いね」

11月もそろそろ終わる。
外に出ると風が吹いていた。
風がとても冷たい。

「ホントだな。早く帰ろうぜ」

「うん」

この時間が好きだ。
他愛のない話をしながら純と一緒にいるこの時間が。

電車は満席だった。

「座れないね」

「うん・・・あっ、でもあそこ空いてる」
「純座っていいよ。あたし立ってるから」
「俺はいいよ。咲奈が座りな」
「ありがと」
赤くなった頬を見られないように俯いた。
あたしは、純のことが好き。
小学生のころから、いやもっと前から。
でも・・・
でも純はいつも、いつもあたしの欲しい言葉だけはくれない。
どんなに想っていても、純はあたしに好きとは言ってくれない。
ちゃんと伝えなきゃ、想いは伝わらない。
わかっているのに、告白ができない。
告白して、振られるのが怖い。
ただの幼馴染だとしか思われてなかったらと思うと怖い。
今まで、何人も振ってきたのに、こんなこと言うなんて卑怯だ。
「咲奈、降りるぞ」
「えっ？あっ、うん」

思いに耽っている間に、目的地に着いていた。

「あのな、俺今日告られたんだ、吉田さんに」

「えっ？」

驚きのあまり、足が止まった。

純も咲奈が止まったのに気づいて、足を止めた。

もしかして、ＯＫしちゃったの・・・？

嫌だよ。

「それでＯＫしたの？」

「ううん、明日返事するって言った」

「どうするの？」

「どうしようかなぁ。吉田さんって結構可愛いんだよな。優しいし、性格良いらしいんだよ」

嫌だ。

あたし以外の人に可愛いなんて言わないで。

あたし以外の人を好きにならないで。

「・・・だめ」

「え？なにが？」

「だめっ！吉田さんと付き合わないでっ！あたし以外の女なんて見ないでっ！」

純は咲奈の顔を真っ直ぐ見つめていた。

「あたし、純のことが好きなの」

あぁ、やっと言えた。
人生で初めての告白。

「俺、その言葉ずっと待ってた。あと、知ってるよ」

「え？」

「咲奈が俺に惚れてるのずっと前から知ってる」

「え？」

「俺、吉田さんの告白その場で断ったから」

純が、優しい顔で咲奈を見た。
今までに見た純の顔で1番優しい顔だった。

「なんで？」

「ずっと前から、俺に惚れてるやつがいるって知ってたから。
そして、今日そいつに告白するつもりだからさ」

「それって・・・」

「咲奈、俺も好きだよ」

ずっと聞きたかった言葉。
ずっと、ずっと純に言ってほしかった。
「あたしも純にその言葉言ってほしかった」
「知ってるよ。だから今言っただろ？」
「純っ」
咲奈は純に抱きついた。
「ありがとう。大好きだよ」
「うん、俺も大好き」
純は咲奈の腕を外し、かがみこんだ。
そして、咲奈の唇に軽く自分の唇を重ねた。
「俺、これファーストキスなんだけど」
「あたしもだよ」
純は満足そうに笑うと咲奈の髪を撫でた。
そして、咲奈の手を取り、歩き出した。

（後書き）

よくありそうな恋愛ものですが楽しんでもらえたら嬉しいです。

純は、あたしの幼馴染をイメージして書きましたっ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2721j/

幼馴染に恋をする

2010年10月21日23時04分発行